

2026年 4月 1日発行  
(公財) 北海道農業公社

▼ 公社HP

<https://www.adhokkaido.or.jp/>



# 農業公社 ニュース



(第34号)

新たな採用者17名（うち嘱託採用・登用9名）の仲間を迎え、当公社の新年度がスタートしました。

厳しい経営環境が続く中、国においては、「食料安全保障の強化」や「環境との調和」などを基本理念として、一昨年改正された食料・農業・農村基本法に基づき、昨年、基本計画が策定され、5年間で集中的に農業構造を転換することとされておりますが、食料安全保障・安定供給の基盤となる「人と農地」に係る構造施策の重要性がこれまで以上に増しており、当公社としても「計画的かつ継続的な事業推進」に一層努めていかなければならないものと改めて認識しているところです。

これから春の農作業が本格化します。気象庁が3/24に発表した3か月予報によりますと、4～6月の気温は平年に比べて高くなり、季節の進行も早くなる見通しのようですが、豊穣の秋を迎えられるよう祈念しつつ、関係機関・団体の方々との連携を密にしながら、各種業務に全力で取り組んでまいりたいと存じます。

「農業公社ニュース」の第34号をお届けいたします。

## ■ 「新規就農者の横顔」をリニューアル！

これまで北海道農業改良普及協会発刊の「農家の友」誌に掲載していた記事を転載していた「新規就農者の横顔」ですが、同誌の廃刊に伴い、今年度から当公社の就農支援活動として引き継ぎ、新たな「新規就農者の横顔」として、この度冊子が完成しました。

道内各地で新規就農された先輩たちの経験談を紹介し、これから新規就農をめざす方々の参考となる一冊になれば幸いです。

今後、就農相談者にはもちろんですが、各地域担い手育成センターにも送付させていただきますので、ご活用いただきたくよろしくお願いいたします。



◀ リニューアルした  
「新規就農者の横顔」

【担い手支援部】

## ■ 「北海道新規就農フェア」を開催！

令和7年度2回目の開催となる「北海道新規就農フェア」をさる2月28日（土）ホテルポールスター札幌で開催しました。

全道59市町村（55団体）が集まり、農業に興味のある方や就農をめざす方など131名をお迎えしました。会場内には各出展ブースのほか市町村PRコーナーや求人票コーナーなどを設置し、「農業を仕事にする相談会」として様々な情報が得られるよう、毎回工夫をこらしています。

今回は、相談者の滞在時間や各ブースへの訪問回数が増え、「次につながる内容や意欲のある方が多かった」といった出展者からの声、相談者からは「資料が豊富でわかりやすかった」「雰囲気良く、就農意欲がわいた」などの声が寄せられました。

次回は8年度の1回目として、きたる7月25日（土）に、会場はフェア初の北海道庁旧本庁舎〔赤レンガ庁舎〕にて開催しますので、よろしくお願い致します。



▲ 会場の様子（全景（左上）、当会社の「なんでも相談コーナー（右上）」  
（市町村PRコーナー（左下）、各出展ブース（右下））

【担い手支援部】

## ■ 農業青年海外派遣等事業を通じ研修を支援

当会社では、道内の農業の担い手と期待される青年が海外での農業研修の経験を通して視野を広めるとともに、優れた経営者感覚を習得いただくことを目的に、道をはじめ関係機関・団体の協力で実施しています。平成22年に北海道国際農業交流協会から事業を引き継ぎ、これまで75人の研修生を派遣し、帰国後は各地で活躍されています。

さる1月15日（木）、札幌市内にて「令和7年度 海外農業研修報告会」を開催しました。6年度派遣の研修生2名（＝カナダ（酪農）、ニュージーランド（園芸））から研修成果の発表があり、国際的視野の体得と担い手としての成長が伺われました。



▲ ニュージーランド（園芸）派遣の研修生



令和8年度は、今春農業大学校を卒業した研修生1名をニュージーランド（酪農）に派遣する予定としています。

【担い手支援部】

## ■ 技術力の一層のレベルアップをめざして

～ 農村施設整備事業に係る教育研修を開催 ～

さる2月12日・13日の2日間、「令和7年度 農村施設整備事業に係る教育研修」（施設課担当者研修）を、また、2月20日には同事業に係る教育研修（管理職研修）を開催しました。

本年度は計3回の教育研修を計画しておりましたが、このうち2回の研修を実施し、昨年9月に開催した現地研修会と併せ、計画していた研修をすべて予定どおり実施することができました。

今回の担当者研修では、直営工事における設計、施工管理、検査等について研修を行いました。近年、設計業務はシステム化が進み、業務の効率化や初歩的なミスの低減が図られている一方で、積算内容やその根拠について十分に理解しないまま設計が可能となり、結果として大きなミスにつながるおそれもあります。そこで本研修では、設計・積算の基礎的事項について、その考え方や根拠を改めて確認し、情報共有を図りました。

管理職研修については外部講師による研修とし、今回は道庁の公社営事業担当課職員を講師としてお招きし、「北海道における草地畜産基盤整備事業の展望について」をテーマに講演をいただきました。道では「草地畜産基盤整備事業の推進方針」が本年3月に改訂されましたが、本講演ではその内容を踏まえた説明が行われました。講演後には意見交換が行われ、道営事業と公社営事業における補助率の違いなどから不公平感があるとの意見が出された一方、北海道農業全体の発展のためには、それぞれの事業の特色を活かし、相互に協調しながら取り組んでいくことが重要であるとの考えが示され、研修は締めくくられました。

今回、特に担当者研修においては、職員がそれぞれ有する知識や経験の違いにより、研修内容の理解度や充実感に差があることが感じられました。研修ニーズの把握に努めながら実施しているものの、内部講師によるOJT研修の難しさを再認識する機会ともなりました。

今後も、より一層内容の充実した研修の実施をめざし、継続的に取り組んでまいります。



▲ 担当者研修の様子



▲ 管理職研修の様子

【農村施設部】

## ■ 北海道スマート農業セミナーを開催

～ 「北海道高度情報化農業研究会」の設立20周年記念事業 ～

さる2月26日（木）、北海道高度情報化農業研究会（事務局：当公社）主催による「北海道スマート農業セミナー」を開催しました。本セミナーは、同研究会が主に総会開催時に併せて実施しているもので、農業の発展に向けた情報技術の活用促進を目的としています。

今回は、研究会設立20周年の記念事業として道の共催を得て、例年より規模を拡大して開催したものです。当日は、北海道大学学術交流会館での現地参加とオンライン参加を併用し、現地参加60名、道内外からのオンライン参加約300名、合計約360名にご参加いただきました。

本セミナーにおける基調講演のテーマを「地域農業をリードするマネージャーの育成」とし、スマート農業技術の実装に加え、それらの技術を地域でどのように活用していくか、また、地域において技術導入をコーディネートするマネージャーの重要性について、取組事例に係る講演を通じてご紹介いただきました。講演終了後には、「スマート農業を支える地域マネージャー」をテーマとしたパネルディスカッションも行われました。

- 内 容**
- (1) 13:10-13:20 **開会挨拶**  
北海道高度情報化農業研究会 ……………会長 小田原輝和
  - (2) 13:20-14:00 **基調講演「地域農業をリードするマネージャーの育成」**  
株式会社スマートリンク北海道 ……………常務取締役 小林伸行氏
  - 14:55-15:00 休憩 (5分)
  - (3) **講演「地域農業をリードするマネージャーの取組事例」**  
14:05-14:30 講演1 オホーツクの個人経営者が考える地域農業の持続性  
大空町 ……………生産者 馬渡智昭氏
  - 14:30-14:55 講演2 てん菜を中心としたマシーニングによる地域農業の存続と津別町におけるスマート農業の取り組み  
津別町農業協同組合 営農部 営農課 ……………マネージャー 有岡敏也氏
  - 14:55-15:00 休憩 (5分)
  - 15:00-15:25 講演3 地域連携型支援によるスマート農業技術の定着化と普及 〜ソルトを基盤としたギトムアップ型導入・定着プロセス〜  
北海道農政部 技術普及課 (道南農試駐在) ……主任普及指導員 大平誠氏
  - 15:25-15:50 講演4 スマート農業技術を核とした十勝地域の持続的発展のために  
鹿追町農業協同組合 営農部 農産課 フィールドスーパーバイザー 今田伸二氏
  - 15:50-16:00 休憩 (10分)
  - (4) 16:00-16:40 **パネルディスカッション「スマート農業を支える地域マネージャー」**  
コーディネーター：一般社団法人北海道農業機械工業会・専務理事 竹中秀行氏
  - 16:40-16:50 質疑応答
  - (5) 16:50-17:00 **閉会挨拶**  
北海道農政部 生産振興局 ……………技術支援担当局長 大塚真一氏



講演およびパネルディスカッションを通じて、スマート農業の推進には、技術導入にとどまらず、「人・地域・仕組み」の整備が不可欠であることが改めて共有されました。加えて、技術を理解し、地域をまとめるマネージャーの存在とその育成が、今後のスマート農業推進における最大の鍵であること、また、JA・自治体・研究機関・企業が連携した地域一体での取組の重要性が確認され、セミナーは締めくくられました。

北海道高度情報化農業研究会は、今後もITやスマート農業技術の活用を通じて、本道農業の持続的な発展に貢献していくこととしています。



▲ 基調講演 (小林伸行 氏)




▲ パネルディスカッション

【農村施設部】

**「令和8年度 安全衛生管理目標」を掲げて労働・交通安全と健康職場づくりの取組を推進**

当公社職員を労働災害や交通災害から守るとともに、職員一人ひとりが健康（心と体）に働くことができるよう、「令和8年度 総合安全衛生管理方針」を策定しました。

当管理方針に5つの安全衛生管理目標を掲げて、「無事故・無災害」及び「無違反」をめざすとともに、職員の「心の健康」と「体の健康」を支える健康職場づくりに取り組んでいます。

令和8年度  2026年

### 安全衛生管理目標

- ◎死亡災害ゼロ
- ◎無事故・無災害の達成
  - ・安全最優先を意識した工事現場及び機械センターにおける安全作業手順の厳守と熱中症対策の確実な実施
  - ・鹿事故を回避するためのスピードダウン運転
- ◎交通ルール遵守による無違反の達成
  - ・法定速度を守った安全運転
  - ・公用車運転前後のアルコールチェック
  - ・交通ルールを守った自転車走行自転車にも適切符制度導入
- ◎職員の「心の健康」と「体の健康」を支える職場の構築
  - ・治療と仕事の両立を図る職員を支援し、全職員（若年層から老年層まで）が働きやすい職場環境の確立
  - ・ストレスのない職場と職員自身による心のケアの推進
  - ◎各種ハラスメントを起さない快適な職場づくり
- ◎カハラから職員を守るための「苦情等受付書」による情報共有と複数による迷惑顧客の対応
- ◎ハハラやセハラなどを未然に防ぐ良好なコミュニケーションの推進

北海道農業公社

【統括労働安全衛生委員会】

## ■ 令和7年度 第2回農場HACCP研修会を開催

十勝育成牧場では「農場HACCP推進農場」に指定されていることを踏まえ、年2回の職員研修会を開催しています。

今回の研修は2月24日に行われ、農場HACCP認定農場である広尾町の佐藤農場から上野場長を講師にお招きし、「農場HACCP認証とその成果」と題して、認証の経過や、そのメリットについてお話しいただきました。

研修に先立って、19日に実際に佐藤農場を牧場職員が視察し、その時の写真を見ながら講演は進められ、多くの職員から質問が出る活気ある研修となりました。上野場長からは「作業の文書化は、有事の際に大変有効であった。職員全員が取り組める内容でシステムづくりをすることが重要である」等の有意義なお言葉をいただいています。

講演後の夜には、上野場長のほか、研修をコーディネートしていただいた普及センター十勝南部支所の皆様を交え、公社役員、牧場職員で懇親会を開催、より内容の濃い一日となりました。



▲ HACCP研修会の様子



▲ 研修に先立つ視察で熱心上野場長のお話を聞く牧場職員

【十勝育成牧場】

## ■ 種雄牛「勝百合華」号生産牧場として家畜改良顕彰を受賞！

十勝育成牧場で生産された勝百合華号は、令和8年1月評価の北海道育種価および数年にわたる現場後代検定結果に基づき、黒毛和種種雄牛として選抜されました。さる3月17日には、十勝育成牧場会議室にて、(一社)ジェネティクス北海道の表彰式が行われたところです。

勝百合華号の現場後代検定成績は、5等級率が高く、枝肉重量（北海道育種価3位）では過去最高の成績を記録し、ロース芯面積（北海道育種価4位）が大きく、特にバラの厚さの優れた枝肉生産が期待される結果となっています。また、サシの「新細かさ指数」および脂肪オレイン酸の育種価も高く、今後の北海道産和牛の改良に貢献することが期待されます。

十勝育成牧場では、今後も北海道産種雄牛の血統候補として貢献できる牛群づくりをめざし、関係機関との連携を強化したいと考えています。



【十勝育成牧場】

本所・支所・牧場所在地

● 本所 ①～⑨ 支所・牧場



**本所**

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番地23  
TEL. 011-241-7551 (代表) FAX. 011-271-3776  
<https://www.adhokkaido.or.jp>



監 査 室

TEL. 011-241-7557

農業経営相談室

TEL. 011-522-5579

農場整備部

TEL. 011-241-7554

総 務 部

TEL. 011-241-7551

農 用 地 部

TEL. 011-241-5751

畜 産 部

TEL. 011-241-5761

担い手支援部

TEL. 011-271-2255

農 村 施 設 部

TEL. 011-241-5701

統括労働安全衛生委員会

TEL. 011-241-7557

**支所・牧場**

**① 岩見沢支所**

〒068-0025 岩見沢市5条西5丁目2番地1 空知農業会館  
TEL. 0126-23-2178 FAX. 0126-23-4260

**② 苫小牧支所**

〒053-0021 苫小牧市若草町5丁目5番3号 日胆農業会館  
TEL. 0144-32-8171 FAX. 0144-32-3215

**③ 帯広支所**

〒080-0022 帯広市西12条南6丁目3番地1 農協連ビル  
TEL. 0155-65-0607 FAX. 0155-33-1503

**④ 釧路支所**

〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10番地 釧路農業会館  
TEL. 0154-22-1538 FAX. 0154-25-4798

**⑤ 中標津支所**

〒086-1007 標津郡中標津町東7条南1丁目1番地2 根室農業会館  
TEL. 0153-72-3296 FAX. 0153-73-2080

**⑥ 北見支所**

〒090-0833 北見市とん田東町617番地 オホーツク JA Bldg.  
TEL. 0157-25-2826 FAX. 0157-25-9188

**⑦ 旭川支所**

〒070-0030 旭川市宮下通4丁目2番5号 JA 上川ビル  
TEL. 0166-25-2613 FAX. 0166-26-3464

**⑧ 稚内支所**

〒097-0001 稚内市末広4丁目2番31号 宗谷農業会館  
TEL. 0162-33-3321 FAX. 0162-33-7339

**⑨ 十勝育成牧場**

〒089-2261 広尾郡大樹町字尾田708番地  
TEL. 01558-7-5121 FAX. 01558-7-5159